

霧ヶ峰高原 環境保全で連携

県と民間が協定締結

〈長野〉茅野、諏訪両市などにまたがる霧ヶ峰高原の環境保全で連携するため、県と民間業者・団体は8日、「生物多様性保全。パ-

トナーシップ協定」を締結した。県が同様の協定を結んだのは10件目で、民間側は園芸用薬剤開発・製造の「保土谷アグロテック」(東京)、林業用薬剤販売の「大同商事」(同)、高原の保全活動に取り組む関係団体でつくる「霧ヶ峰自然環境保全協議会」の3者が参加した。

霧ヶ峰高原では、ニホンシカによるニッコウキスゲなどの植物の食害対策として、同協議会がシカよけの電気柵の設置などを進めてきたが、資金不足や会員の高齢化などを受けて活動は先細っていた。

協定を締結した2社は今

後、同協議会の活動を支援するために3年間、資金提供するほか、県が今年度から始める忌避剤を使った食害対策の実証実験に協力する。同協議会の土田勝義座長(信州大名菅教授)は「県内屈指の草原の自然を守るためには継続的な取り組みが必要で(協定は)大変心強い」と話していた。



高山植物のニッコウキスゲで彩られる、夏の霧ヶ峰高原(諏訪市観光協会提供)